法務大臣　南野知恵子殿

東日本入国管理センター　所長殿

グロジャ・アルセンヌ氏の仮放免と在留特別許可を求める請願署名

グロジャ・ジャル・アルセンヌ（GRODYA　NJALU　ARSENE）氏は、コンゴ民主共和国のイツリ地区の出身ですが、その地のレンドゥ族とヘマ族の激しい民族抗争の中、彼の属するヘマ族は根絶やしにされようとしています。彼の家族は全員、一族もほとんどがレンドゥ族によって虐殺されたとのことです。またグロジャ氏はそのような民族抗争に加えて、ある部族の長の継承者であったため、同族内の反対派から何度も命をねらわれてきました。

グロジャ氏は、迫害の中、国立ブニア教育大学助教授（歴史学）の地位を捨て、日本へ 2003 年 9 月 16 日、入国しました。同年 10 月 9 日難民申請をしましたが、認定されませんでした。異議申し立てをしましたが、2004 年 9 月 1 日に却下され、同日午後、東京入国管理局に収監拘束されました。7ヶ月の後、2005 年 4 月 8 日、東日本入国管理センターへ移送され、今日に至っています。

グロジャ氏は、2004 年 8 月、笹井小夜子氏（経堂緑岡教会会員）と、ホームステイという形で同居していました。二人はその頃から、結婚の意志をもっていましたが、突然の収監拘束となってしまいましたので、同居家族の協力賛成を得て、2004 年 12 月 1 日、入籍・結婚しました。

グロジャ氏は、長期にわたる収監拘束と、見えない将来に対する不安と絶望感で、血圧が上昇し、吐き気や偏頭痛、体重の激減を訴えています。精神的にも安定した状況ではありません。

国外退去は、彼にとって確実な死を意味します。どうかグロジャ氏が一日も早く家庭に戻り、安定した生活が送ることができますよう、下記の通り請願致します。

1．　長期間の収容に伴う本人の健康状態の悪化は言うまでもなく、日本人配偶者の精神的苦痛も測り知ることはできません。グロジャ・アルセンヌ氏を一日も早く仮放免許可して下さい。

2．　凄まじい虐殺から逃れ、庇護を求めて日本政府に難民申請したグロジャ・アルセンヌ氏が、これ以上苦しむことなく、安心して暮らせるように、日本での在留を許可して下さい。

3．　日本人配偶者がいることを配慮して、グロジャ・アルセンヌ氏が末永く安定した生活を日本で送れるように、安定した在留資格を認めて下さい。

氏　名	住　　所

署名発起人および集約先：日本基督教団　経堂緑岡教会　牧師　松本敏之

〒156-0052 東京都世田谷区経堂 1-30-21　電話：03-3428-4067　FAX：03-3428-3377

http://www.km-church.or.jp/（追加用署名用紙・補足情報等）

第一次集約日：２００５年６月３０日

取り扱い団体：